

【還暦・古希の部】 大会細則・競技運営事項

1. 大会適用規則は、当該年度公認野球規則・競技者必携及び宮城県還暦古希軟式野球大会運営事項を適用する。
 2. この大会では、勝点制を採用する。勝ち点は3点、引分けは1点、負けは0点とする。
 3. この大会の試合時間は100分とし、95分を超えて新しいイニングに入らない。
100分以内で7回終了し同点の場合は、そのまま通常の延長戦とするが、95分を超えて同点の場合は引分けとする。
 4. コールドゲームは、5回以降7点差とする。
尚、降雨・日没の場合、5回終了後はコールドゲームを適用する。また、降雨で中断の場合は、30分経過後に試合続行の可否を本部で決定する。
 5. 降雨・日没・その他の理由によって、本部が試合続行不可能と判断した場合、5回表裏をまだ完了していない時は継続試合とする。
 6. この大会では、EDH制を採用することができる。但し、EDHで出場する選手は守備につけない。
尚、EDHは相手先発投手が交代しない限り、一度は打席にたたなければならない。
 7. この大会では、申告敬遠を採用する。尚、申告は監督が行う。
 8. 原則として、試合の棄権は認めない。但し、棄権せざるを得ない状況が起きた場合は、直ちに運営部長に連絡すること。その場合、当該チームは不戦敗となり、更に減点1点を付す。
尚、当日他の試合の担当チームとなっている場合は、その任務を全うすること。
 9. 全日程が終了し、勝点で同点のチームが出た場合は直接対戦で勝利したチームを上位とする。
三つ巴となった場合は、当該チーム同士の対戦試合で失点合計の少ないチームを上位とし、それでも同点の場合は得点合計の多いチームを上位とする。
それ以外の場合は、全試合の失点合計の少ないチームを上位とし、それでも同点の場合は得点合計の多いチームを上位とする。
 10. 試合当日は、試合開始予定時刻の1時間前に球場に集合し、本部の指示に基づきメンバー表3部を本部席に持参する。尚、メンバー表には先発出場選手の名前・フリガナ・背番号・守備位置を記入する。尚、メンバー表交換と攻守決定は本部役員立ち会いのもと行う。
 11. メンバー表提出後、氏名・背番号・守備位置など明らかな記入ミスの場合は、本部・審判・対戦チーム立ち会いの上 訂正を認める。
 12. ユニフォームは同型・同色・同意匠のものとする。また、パンツはショートスタイル以外のロングスタイル、ストレートスタイルまで自由とする。
 13. スパイクのデザイン・カラーは自由とするが、金具付き及び運動靴は禁止する。
 14. 金属バットは、全日本軟式野球連盟公認 JSBB印の物を使用する。
尚、雷発生時は本部が状況判断して試合を中断し、全員安全な場所に避難する。
 15. サングラスの使用を認める。但し、ミラーレンズは禁止とする。
 16. ベンチに入れる者は、ユニフォームを着用した選手・監督の他は、チーム代表者・責任者・マネージャー・記録係とする。
 17. シートノックは原則として行わない。
- 2-
18. 選手が途中交代する場合は、監督と交代選手と一緒に球審に申し出て本部の確認を得る。
 19. 抗議権は、監督か当事者のどちらか1名とする。
 20. ベンチからのタイムは、攻守ともに3回までとする。但し、投手交代は除く。

21. 捕手または野手が、1試合に投手のところに行ける回数は3回以内とする。
22. 捕手は、全日本軟式野球連盟公認のヘルメット・マスク・レガース・プロテクターを着用する。
ファウルカップについては着用が望ましい。
23. 危険防止の為、打者・走者・ベースコーチは必ずヘルメットを着用する。
また、イニング間に捕手に代わって投手の投球を受ける者も必ずマスクを着用すること。
更に、ベンチサイドで投手の投球練習の相手をする場合も同様とする。
24. 危険防止の為のラフプレー禁止ルールの徹底について
このルールの趣旨は、フェアプレーの精神に則りプレーヤーの安全を確保するため、攻撃側及び守備側プレーヤーが意図的に相手に体当たり或いは乱暴に接触するなどの行為を禁止するものである。(アマチャー内規)
①タッグプレーの時、野手がボールを明らかに保持している場合は、走者はたとえ走路上であつても野手を避けるか又は減速するなどして、野手との接触を回避しなければならない。
②タッグプレーの時、捕手または野手が明らかにボールを持たずに塁線上及び塁上に位置して走者の走路を塞いだ場合は、オブストラクション(走塁妨害)が適用される。
25. バットリング並びにスイング棒などの使用は禁止する。
26. 試合中、次打者以外の者はみだりにベンチを出る行為は禁止する。但し、競技を準備する者、ボールデッドのボールを処理する者は除く。
27. 熱中症対策として、試合当日の気温が30℃を超えた場合 試合開始後50分経過したのち給水タイムを設ける。また、試合当日の気温が35℃を超えると予想される場合は延期もある。
28. 次の試合のバッテリー1組は、4回終了以降ベンチの許可を得てブルペンでの投球練習を認める。
29. 試合中の負傷に対しては、当該チーム又は個人の対応とする。
30. 試合中のファールボールは、両軍ベンチの選手と運営担当チームが処理する。
運営担当チームは、試合開始前のライン引き及び試合の運営に当たる。
尚、担当試合の結果報告は所定の報告用紙に記入の上、次の試合の運営担当チームに速やかに引継ぎをすること。
31. 大会の運営は、宮城県還暦軟式野球連盟が主体となつて行う。
32. 本項目で定めのない事項が発生した場合は、本部役員及び審判員の協議により決定する。

以 上

【スーパー古希の部】 大会細則・競技運営事項

1. 大会適用規則は、当該年度公認野球規則・競技者必携及び宮城県還暦古希軟式野球大会運営事項を適用する。
2. 試合は5回戦とし、試合時間の制限は設けない。5回終了時同点の場合、特別延長戦を行う。
【特別延長戦のルール】
 - ①1死満塁で継続打順とし、走者は前回の最終打者を1塁走者、2塁、3塁走者は順次前の打者とする。
 - ②2イニングで決着がつかない場合は、抽選とする。
3. コールドゲームは、適用しない。但し、大量の差がついた場合は、本部の判断で両チームに確認の上、試合を終了することができる。
4. 降雨・日没・その他の理由によって、本部が試合続行不可能と判断した場合は、ノーゲームとして再試合をおこなう。
5. この大会では、EDH制を採用することができる。但し、EDHで出場する選手は守備につけない。尚、先発のEDHは相手投手が交代しない限り、一度は打席にたたなければならない。
6. この大会では、申告敬遠を採用する。尚、申告は監督が行う。
7. 試合当日は、試合開始予定時刻の1時間前に球場に集合し、本部の指示に基づきメンバー表3部を本部席に持参する。尚、メンバー表には先発出場選手の名前・フリガナ・背番号・守備位置を記入する。尚、メンバー表交換と攻守決定は本部役員立ち会いのもと行う。
8. メンバー表提出後、氏名・背番号・守備位置など明らかな記入ミスの場合は、本部・審判・対戦チーム立ち会いの上 訂正を認める。
9. ユニフォームの制限は設けない。混成チームは、選手所属チームのユニフォーム・背番号で可とする。パンツはショートスタイル以外のロングスタイル・ストレートスタイルまで自由とする。
10. スパイクのデザイン・カラーは自由とするが、金具付き及び運動靴は禁止する。
11. 金属バットは、全日本軟式野球連盟公認 JSBB印の物を使用する。
尚、雷発生時は本部が状況判断して試合を中断し、全員安全な場所に避難する。
12. サングラスの使用を認める。但し、ミラーレンズは禁止とする。
13. ベンチに入れる者は、ユニフォームを着用した選手・監督の他は、チーム代表者・責任者・マネージャー・記録係とする。
14. シートロックは原則として行わない。
15. 選手が途中交代する場合は、監督と交代選手と一緒に球審に申し出て本部の確認を得る。
16. 抗議権は、監督か当事者のどちらか1名とする。
17. ベンチからのタイムは、攻守ともに3回までとする。但し、投手交代は除く。
18. 捕手または野手が、1試合に投手のところにける回数は3回以内とする。
19. 捕手は、全日本軟式野球連盟公認のヘルメット・マスク・レガース・プロテクターを着用する。
ファウルカップについては着用が望ましい。
20. 危険防止の為、打者・走者・ベースコーチは必ずヘルメットを着用する。
また、イニング間に捕手に代わって投手の投球を受ける者も必ずマスクを着用すること。
更に、ベンチサイドで投手の投球練習の相手をする場合も同様とする。

21. 危険防止の為のラフプレー禁止ルールの徹底について

このルールの趣旨は、フェアプレーの精神に則りプレーヤーの安全を確保するため、攻撃側及び守備側プレーヤーが意図的に相手に体当たり或いは乱暴に接触するなどの行為を禁止するものである。(アマチャール内規)

- ①タッグプレーの時、野手がボールを明らかに保持している場合は、走者はたとえ走路上であつても野手を避けるか又は減速するなどして、野手との接触を回避しなければならない。
- ②タッグプレーの時、捕手または野手が明らかにボールを持たずに塁線上及び塁上に位置して走者の走路を塞いだ場合は、オブストラクション(走塁妨害)が適用される。

22. バットリング並びにスイング棒などの使用は禁止する。

23. 試合中、次打者以外の者はみだりにベンチを出る行為は禁止する。但し、競技を準備する者、ボールデッドのボールを処理する者は除く。

24. 熱中症対策として、試合当日の気温が30℃を超えた場合、試合状況を見て給水タイムを設ける。また、試合当日の気温が35℃を超えると予想される場合は延期もある。

25. 次の試合のバッテリー1組は、メンバー表交換以降ベンチの許可を得てブルペンでの投球練習を認める。

26. 試合中の負傷に対しては、当該チーム又は個人の対応とする。

27. 試合中のファールボールは、両軍ベンチの選手と運営担当チームが処理する。

運営担当チームは、試合開始前のライン引き及び試合の運営に当たる。

尚、担当試合の結果報告は所定の報告用紙に記入の上、次の試合の運営担当チームに速やかに引継ぎをすること。

28. 大会の運営は、宮城県還暦軟式野球連盟が主体となつて行う。

29. 本項目で定めのない事項が発生した場合は、本部役員及び審判員の協議により決定する。

以 上